

て以來忠功をはげますにをいては、かさねて賞をあてをこなはるべき者也と云々、

〔總見記〕織田氏家傳事

其家傳ヲ尋子見ルニ、信長ヨリ十八代ノ先祖、權大夫平親實ト云人、始メ江州津田ノ郷ニ住セラレシガ、其後越前ノ國織田ノ庄ニ移リ、織田大明神ノ神職トナル、後ニ出家シテ覺盛ト號ス、是則當氏織田ノ曩祖也。○中略或時彼武衛高源ノ末孫織田大明神ヘ參詣ノ時、親實ノ曾孫モ當社ノ神職ニテ出迎タリケルニ、其時ノ神職ノ子息某ト云才器利發ニシテ他ニ異ナル兒ニ見エシカバ、武衛是ヲ愛シ武士ニシテ召仕ハレケリ、即チ在名ヲ稱シテ織田氏トナシ給ヘリ、

〔總見記六〕同國江近京極家同淺井氏由來事

又京極家ハ、佐々木四郎高綱ノ子孫ニテ、○中略其家ヲ京極ト號ス、京極六角ノ稱號ハ、皆在京ノ宅地ノ名也、

〔土佐軍記〕三韓爲日本屬國事附長曾我部先祖事

此時ノ國守細川ノ某、其威輕シテ、諸士下知ニ不隨、其外吉良大平本山ナンド云ル領主有ケレドモ、其比ハ兵革打續テ、政道モ妄也シカバ、國人アヘテ不信之、是ニ由テ長岡郡二十枝ハダ江村郷ノ庄司、今度元勝ノ著岸アル由ヲ聞テ大ニ悅ビ、此所守護ナフシテ、近郷ノ亂妨狼籍甚シ、爰ニ留リ玉へ、守護ニ仰ギ奉ルベシトテ、江村郷ノ領主江村備後守ガ養子トシテ、長岡郡曾我部ニ城ヲ築テ入オキ、則在名ニヨツテ、氏ヲ曾我部ト改ケリ、然ルニ同國香美郡ニモ曾我部ト云所アツテ、領主ヲモ曾我部某ト申ケレバ、各郡名ノ上ノ一字ヲ添テ、長曾我部香曾我部トゾ申ケル、

〔土佐軍記上〕長宗我部先祖之事

元弘の時、一宮○恒良の臣、秦武文久武也、二人の臣下ありしが、一宮越前金ヶ崎の城にて御害の後、浪人して長氏○長の臣下となる、中の内は根本土佐の者也、是も浪人して長の臣下となる、